

高度な真空部品展開

入江工研 海外や新領域に拡大へ

入江工研(株)(東京都千代田区)は、真空技術をコアに半導体・FPD製造装置向けのゲートバルブやチャンバーといった様々な機器を提供している。海外への事業拡大のほか、粒子加速器など非半導体分野への展開も注力している。

入江工研(株)は、真空バルブやチャンバーといった様々な真空機器を手がけている。半導体・FPD製造装置向けは売上高の6〜7割を占め、このうち近年の伸長を背景に半導体向けは8割となっている。金属ペロローズや真空機器は標準化されているため差別化が困難

だが、高度な溶接および加工技術により、低振動低アウトガス、低パーティクル性といった特性を実現し、顧客に高く評価されている。そのため、PVDやマスク描画装置など最先端

の半導体前工程装置で多く採用されている。埼玉県川越市にテクニカルセンターがあり、研究開発のほか真空機器の設計・製造を行っている。また、愛媛県に2カ所の工場があり、ペロローズや真空機器の設計から加工と溶接、検査まで一貫で行っている。

顧客ニーズに合わせた対応力の高さが強みだが、最先端デバイス向けにさらなる特性向上を目指している。また、センサーやAIを活用した予知保全や予防保全の実現も推進し、保全本もビジネス化したい考えだ。

国内での生産能力の増強は協力会社の活用を中心とするが、自社工場では最新加工機の導入などを通じた効率化を図っている。さらに、海外では2年前に中国で合弁会社を立ち上げ、現地の製造装置メーカーへの供給を強化している。同じく半導体・FPD産業が盛んな韓国では現地子会社が製造・販売を担当しているほか、設計にも対応する。

このほか、現地ニーズの高まりが見込まれることから北米での販売拠点設立も検討している。同社のコア技術は人の手を要する比率が高く、熟練技能者から若手への伝承を活性化している。動画教材の活用など、人に依存しない教育プログラムも設けている。また、愛媛県の工場では地元と連携してインターンシップを受け入れるなど新卒採用を強化しているほか、Uターンニーズを捉えるため全国規模での求人を行っている。

注力テーマとして、中工程の活用を背景にPLP基板の大型化に対応した製品展開がある。また、大学・研究機関向けの粒子加速器や、電子顕微鏡を想定した超高真空ポンプも今後拡大したい分野だ。

同社は2026年に創業60周年を迎える。国内事業所の改装など、さらなる成長に向けた記念事業を計画している。



半導体用ゲートバルブ

